

様式2 令和6年度 清瀬市立 清瀬第五中 学校 学校評価					
学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
・和敬 明るく思いやりのある人 ・思索 深く静かに考える人 ・剛健 たくましく、がまん強い人		○育成を目指す資質・能力 ・主として学びに向かう力、人間性等の涵養 ・主として思考力、判断力、表現力等の育成 ・主として心身の健康、豊かなスポーツライフの育成 ○特色ある教育活動 ・体験的な学習に力を入れ、「社会や世界に向き合い関わり合い自分の人生を切り開いていく力」を育成する ・食育やキャリア教育の視点から農園活動を実施し、自ら学び考える力や課題を解決する力を高める ・SDGsをテーマとして、修学旅行や校外学習などの体験学習を中心とした教育活動を実施し、主体的に判断し課題を発見・解決する力を育成する ・人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせる ・地域や小学校と連携して、体験的な活動のより一層の充実を図り、地域や郷土を愛する心を育む			
目指す学校像(ビジョン)					
【目指す学校像】	○生徒にとって、楽しく、行きがい(生きがい)のある学校 ○保護者にとって、親しみがあがり、地域に誇りに思われる学校 ○教職員にとって、自己研鑽に励み、協力して前に進める学校				
【目指す児童・生徒像】	○和敬・・・明るく思いやりのある人ー自他の生命を尊重する心の育成 ○思索・・・深く静かに考える人ー思考力、判断力、表現力の育成 ○剛健・・・たくましく、がまん強い人ー心身の健康、豊かなスポーツライフの育成				
【目指す教師像】	○常に生徒のことを第一に考える教師 ○日々研修に努め、チャレンジ精神をもって授業の改善、充実に取り組む教師 ○体罰や不適切な指導を許さぬ教師				
前年度までの学校経営上の成果と課題					
[成果]・毎日の学校の様子や、給食の内容などの情報を学校ホームページによって発信することで、保護者や地域の方に今の学校の様子を伝えることができた。 ・農園活動をはじめとした体験的な学習や様々な外部講師による出前授業等は、「生きて働く知識・技能」の涵養に向けた取組として効果をあげている。 [課題]・生徒の興味・関心を引き出しし基礎基本の定着等を図りつづけるために、ICT機器の活用をはじめとした授業改善が必要である。 ・特別な支援や配慮が必要な生徒が増えている傾向にあり、サポートルームや外部機関との連携や特別支援教育の充実が一層大切になる。					
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	ICT機器を活用して、理解の定着を図れるようにする。	3	4	ICT機器活用前よりは理解の定着が図れていると思うが、生徒はICT機器の利用が当たり前になっているため、有効な活用法の研修機会を作るなどして全校で積極的に取り組む体制をより進めていき、さらに分かりやすい授業を展開するなど工夫をしていくとさらによいと思う。また、図書室の利用の大切さにも引き続き目を向けて活用して欲しい。	ICT機器に関しては今後も校内研修やミニ研修等を通じてより有効に活用していけるようにしていく。あわせて、理解の定着をより図れるような授業を展開し、より積極的にICTを活用していく。
	授業のねらい・目標を明確にし、流れ、振り返りを視覚に訴えた授業を行う。	3	3	目標やねらいを視覚に訴えるなど明確にするのはとても分かりやすくてよい。一方で、最後の振り返りやまとめの時間が十分にとれないことが多くなってしまいがちなので、授業の組み立てで工夫が必要だと感じる。また、課題を見つけたら、意欲を掻き立てたりする掲示の工夫をお願いしたい。	今後もユニバーサルデザインの視点を取り入れて目標やねらいを明確にした授業を展開していく。また、まとめや振り返りの時間をしっかりと確保し理解の定着を図り、ただ目標を示すだけにしないようにしていく。
豊かな心の育成	いじめ調査、学級環境適応感尺度(アセス)を実施し、生徒一人一人の実態を把握・分析して指導に活かす。	4	3	普段の学校生活での生徒の様子の観察に加え、いじめ調査やアセス等を活用して生徒の一人一人の実態について把握して対応を行ってきた。また、生徒のこや悩み事の相談にのってくれる先生やスクールカウンセラーがいるという質問では、否定的な回答をした割合が10%から9%に、分からないと回答した生徒が17%から16%とほぼ横ばいのため、生徒が相談しやすい環境をさらに構築していく。	相談しやすい環境はある程度できてきているが、否定的な回答をした生徒やわからないと回答した生徒も一定数いるので、生徒が相談しやすい環境作りを今後も継続して行っていく。
	学級活動や総合的な学習の時間、特別の教科道徳、生徒会活動(あいさつ運動、ボランティア活動等)を通し、主体性や社会性を育む。	4	3	「学級活動や総合的な学習の時間、生徒会活動を通し中学生は社会性が育まれていると感じる」という質問に対して教員の95%は肯定的な回答をしているが、生徒の12%がわからないと回答をしている。そのため様々な活動をするに当たって、しっかりと目的やねらいを伝えて実施していくようにしていく。	今後も様々な活動を通して、社会性や主体性を育てていく。その際に、生徒が活動のねらいや目的をより意識できるように、丁寧に説明を加えていく。成果と課題を分析し、必要に応じて見直しを図っていく。
健やかな体の育成	専門家による指導や講演などを実施し、生徒が体験的に学ぶ機会を設ける。	4	3	今年度も「上落語・英語落語の講演・体験」邦楽の実演・体験がオリンピックによる講演・実技指導など専門家による体験的な活動の機会を多く設けることができた。3学期も「万博に関する出前授業」や「金管楽器の五重奏」等の活動も多く設定している。生徒の「体験的な活動は自分の成長に役立っている」という質問で肯定的な回答をした割合も88%あり、生徒の成長につながれるよう、今後も体験的な活動を積極的に取り入れていく。	様々な講演や体験を実施していただけており、とても有益なことだと感じる。体験的な活動を楽しみにしている生徒も多いと思うので、これからも途切れることなく貴重な体験活動を継続して行ってほしいと思う。
	健康・安全に係る取組を生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4	2	生徒が主体的に取り組める活動を多く展開していることが分かった。一方で、活動に消極的な生徒に、いかに興味関心を持たせていくかが肝心になってくると思う。生徒がどのようなことに問題意識をもっているのか、どのようなことを知りたいと思っているのかを互いに共有できればよいと思う。また、生徒の身近な問題として捉えられていることなどを検証し、改善を図ってほしい。	「薬物乱用防止教室」を始め、生徒が主体となって取り組む活動に関しては、今後も継続して行っていく。一方で、活動に消極的な生徒にも、身近な問題として捉えさせたり興味関心をもてたりするような取組の工夫を行っていく。
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開(ねらい・流れ・振り返りの表示)の推進、教室環境の整備を充実する。	4	1	学校全体でユニバーサルデザインを踏まえた授業等の展開を意識して行うようにしており、すべての教員がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の実施や教室環境の整備をするという質問に肯定的な回答をしており、全校で浸透している。一方で保護者への本校では、生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を行っているという質問に対して、否定的な回答をした割合は6%程度と少ないが、一方で分からないと回答した割合が全体の回答の3分の2を占めているため、改めて学校公開等を通じて授業の様子を知ってもらい保護者に浸透させていくようにする。	保護者の回答の「わからない」の割合が多いのは仕方ないかもしれないが、より一層学校に足を運びやすい環境作りをしたり、ホームページで紹介したり、公開期間やお知らせ方法を工夫したりするなどしてもよいと思う。また、校内研修等で教員の意識と実践を高めていくことも必要だと思う。
	サポートルームやチャレンジルームとの連携を密にとり、支援を必要とする生徒の情報を全教職員で共有し、組織的に対応する。	4	4	サポートルームやチャレンジルームでは生徒への配慮がとても行き届いていてという印象があります。教室に入るのが難しかったり気持ちの整理ができなかったりする生徒にとって、もう一つの居場所があることはあと一歩を踏み出すきっかけになると思います。引き続き情報共有と共通の対応をお願いしたいです。	サポートルームやチャレンジルームとの連携や情報共有を今後も丁寧にやっていくとともに、スクールカウンセラーやSSWなど外部機関との連携も密に図り、生徒への対応を今後も丁寧にやっていく。
本校の特色	学校ホームページとH&Sを有効に活用し、日々の教育活動を適時的に的確に掲載・発信する。また、行事等においては必要に応じて動画の配信を行い情報の発信を進める。	4	4	今年度も学校ホームページの更新を毎日行い、教育活動の様子を発信することができた。保護者のアンケートでは「本校の学校ホームページの内容は適切である」という質問に対して昨年度と同様に94%が肯定的な回答だった。H&Sの配信に関しては既読率が7割程度の場合もあるため、改めて連絡方法の周知をしていく必要がある。	今後もホームページを毎日更新していき、学校の教育活動や生徒の様子を地域・保護者に発信していく。H&Sの配信については保護者会等を通じて周知を図っていく。
	地域や保護者、小学校などと連携して「花のチカラ プロジェクト」をはじめ、様々な学校行事に取り組んでいく。	4	4	今年度も地域と連携して、球根や花植え、地域への鉢花の配布などの「花のチカラ プロジェクト」を複数回実施することができた。小中連携では十小と合同で「ひまわりフェスティバル」の種まきを計画していたが雨で中止となってしまったが、今後も小学校と連携して様々な活動を展開していく。	地域・保護者・近隣の小学校と連携して「花のチカラ プロジェクト」を実施して、豊かな心の育成を図ることができた。今後も、様々な活動を通して、連携を深めていく。